

はぐくみプロジェクト 通信

Vol. 7

2025.2 発行

「子どもの笑顔」のスポンサー / として

452企業・団体、個人159名の皆様に応援いただいています！

企業・団体・個人多くの皆さまよりいただきました

(2025年1月末現在)



あたたかいご支援をご紹介いたします。(2024年10月1日～2024年12月31日)

現金でのサポート

(一財)近畿陸運協会さま / (一社)生命保険協会 滋賀県協会さま
 (一社)滋賀県労働者福祉協議会さま / 内山 雅史さま
 エグゼクティブクラブさま / 金子 喜一さま / (株)ディー・アクトさま
 キヤノンマシナリー(株)さま / 倉橋 香織さま
 滋賀県社会福祉協議会 はたらく体験一同さま
 滋賀県民共済生活協同組合さま / 堤 定彦さま / 手作りグループさま
 寺嶋 喜一さま / 東海高熱工業(株)滋賀事業所さま
 TOTOグループ UNIONさま / はぐプロTシャツ購入 56件
 匿名 10件 **現金寄付 2,361,895円**

金券でのサポート

(株)平和堂さま
 (平和堂商品券 3,000,000円)
 東びわこ農業協同組合さま
 (JA東びわこ直売所利用クーポン券 64,000円)

物品でのご寄付はフードパントリー等を通じてお渡ししています /



物品でのサポート

アイリスオーヤマ(株)さま (食品・飲料) / 旭食品(株)さま (食品・飲料)
 NPO法人YORISOInetworkさま (さつまいも・大根・じゃがいも・人参) / 近江米振興協会さま (玄米)
 花王グループカスタマーマーケティング(株)さま (子ども用歯みがき粉) / 加藤産業(株)さま (食品・飲料)
 (株)サンコウさま (スプーン・箸) / (株)村田製作所さま (食品・菓子類) / (株)中谷組さま (精米) / (株)平和堂さま (精米)
 グレースコミュニティサービス大津GOHANKAIさま (サンダル) / グンゼラブアース倶楽部さま (子供肌着)
 桜ヶ丘農園同好会さま (さつまいも・大根) / 滋賀教区浄土宗青年会さま (精米・玄米)
 (福)共生シンフォニーさま (クリスマスクッキー) / 生活協同組合コープしがさま (食品・菓子類)
 聖護院製麺さま (ミートソース) / 東洋アルミエコプロダクツ(株)さま (紙容器ほか) / 中村 茂喜さま (食品・菓子類)
 日世(株)びわ湖工場さま (コーンフレーク) / 東びわこ農業協同組合さま (精米)
 フードバンク滋賀さま (菓子類) / フジノ食品(株)さま (食品・調味料類)
 レーク滋賀農業協同組合さま (玄米・アイス) / 匿名 (箱菓子) / 匿名 (精米・パックジュース)

子ども食堂さんからのメッセージ



わつなぎ食堂(高島市)

ランチは、子どもたちの大好きなオムライスを作りました。野菜たっぷりのサラダも子どもたちが自ら取り皿に！ツリーに見立てたサラダがどんどん崩れていくほどもりもり食べていました♪



むさっ子食堂(近江八幡市)

立ち上げ当初より、「食を通してのつながりづくり」を大切にしています。ひとり親家庭支援事業も実施していますが、日々の生活の大変さや保護者さんの頑張りを肌で感じています。ひとつひとつの出会いに心を寄せ、チームむさっ子として成長したいと思います。継続的にご支援いただきありがとうございます。

いつもありがとう / ございます /



地域循環型未来食堂「みんなの食堂」(彦根市)

度重なる値上げラッシュの中、運営費の捻出に頭を悩ませていたところ。子どもたちの活動に大切に活用させていただきます。



はるにし子どもカレー食堂(栗東市)

「おいしいな」「みんなと食べるよけいにうれしいわ」こんな子どもたちの声を聞くことができます。子どもカレー食堂を続けられるのも、みなさんの支援のおかげです。ありがとうございます。



子ども食堂

アドバンスプロジェクト

大交流会を開催しました！



去る12月4日(水)県立長寿社会福祉センターにて、「子ども食堂」というキーワードで多様な人びとが出会いつながる機会となり、滋賀県の子どもの食堂や、地域の“これから”をみんなで考えることを目的とした交流会を開催しました。

当日は、**35名** (子ども食堂 20名(17団体)、企業・団体 7名、行政・社協 8名) の皆さんにご参加いただき、子ども食堂に関わる皆さんのひとつひとつのエピソードを共有しながら、今後それぞれの地域でどんなことをやっていきたいか、どんなことが出来たらいいか等、未来像について話し合うワークショップを実施しました。



エピソードトークをご紹介します

子ども食堂を通じて感じたことや、心に残っているエピソードを6名の皆さんにお話いただきました。皆さんのあたたかなエピソードの一部をご紹介します。

月1回第4土曜開催
今年8年目！



「食堂のOB」～未来につながるTくんとの出会い～

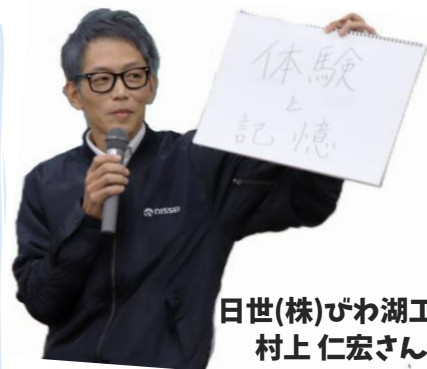
子ども食堂をはじめて約8年。開始当初からおばあちゃんと弟と参加してくれていたTくん。中学生になってからは部活が忙しかったのか来なくなっていたけれど、この間ひょっこり顔を出してくれました。やんちゃだったTくん(当時小学5年生)が現在大学生になり、子ども食堂OBとして、おばあちゃんと並んで野菜を切ったり手伝ってくれている姿を見て感動しました。「地域の子どもは地域で見守り育てましょう」をスローガンに地域の中に根差した活動を心掛けて続けていますが、Tくんが大きくなってこの居場所を大切に思ってくれて、手伝おうと思ってくれていることが未来につながっている気がしてとても嬉しかったです。



田上っ子食堂(大津市)
大塚 光子さん

「体験と記憶」～未来につなぐ体験を子どもたちとともに～

現在、各地の子ども食堂で「体験と記憶」をテーマに『ソフトクリームまきまき体験』を実施しています。企業として、社会課題である環境問題に目を向けるなか、子ども食堂という居場所で、将来ある子どもたちにこの体験を通じて食品ロスのことや環境問題について伝えていきたいという思いで取り組みをスタートしました。ソフトクリームを実際に食べて、美味しく楽しく学ぶことで、子どもたちの記憶にも残っていくと感じています。また、この体験を通じて、子どもたち自身も社会課題の解決に向けて一緒に取り組んでいるということが伝わり嬉しそうです。子どもたちの声を直接聞くことによって、私たちの会社でのモチベーションアップにもつながっています。



日世(株)びわ湖工場
村上 仁宏さん

「おにぎりとお手紙で元気になった子どもたち」～伝えたい2つのエピソード～

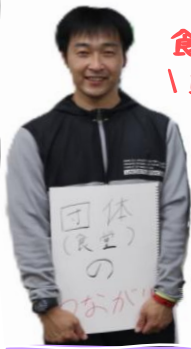
学校をお休みしている子どもとお母さんたちの居場所としてスタートしたのがはじまりでした。今回、2つのエピソードをお話したいと思います。一つ目は、学校に行けなくなった子が少しずつ自信を取り戻し元気になっていったエピソードです。その子は学校には行けなくなっていましたが、居場所には来てくれていました。私が握るとカチカチになってしまうおにぎりも、その子がにぎるとふわふわで美味しいおにぎりができるので、まわりからも褒められるようになって、少しずつ元気になっていきました。もう一つは、外出ができなくなっていた子のエピソードです。現在、学校にも居場所にも行けない子どもたちに、お手紙を書いて物品などを届ける活動をしています。その子自身はなかなか外に出られずにいましたが、その子の作品が家を飛び出して作品展などに展示されるようになりました。結果的に、その子自身もその作品展を見に行くために外出するようになりました。今回その子たちの顔が浮かんで、どうしてもお話をしたいと思いました。



まゆるあ(東近江市)
山本 美佳さん

「団体(食堂)のつながり」～つながりからひろがる活動～

食堂同士で情報交換
助け合い&学び合い /



みまもり食堂(大津市)
岡野 祐太さん



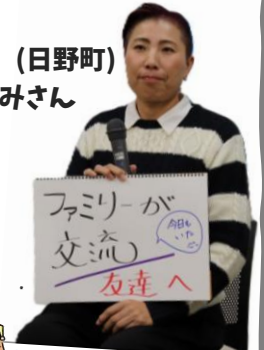
最初は地域で子どもたちに食事提供をという話を中心でしたが、子ども食堂を通じて他の団体とのつながりが増え、食材を提供してもらったり、共同で使ったり、作り方を教えてもらったりと活動がどんどん発展しています。自分一人ではなかなか難しいことも、子ども食堂のつながりがきっかけで活動の幅がひろがり、お互いにサポートしあったり、自分自身ができることも増えたと実感しています。

「ファミリーが交流～友達へ」～みんなが一つになる居場所～

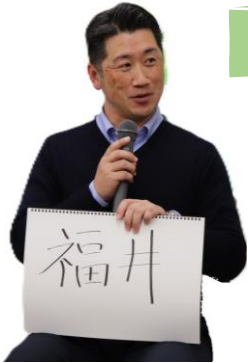
子ども食堂を始める前に地域の居場所としてスタートしました。最初はなかなか人が来ませんでしたが、居場所をするなかで食も大切だと感じ、食事の提供もはじめました。振り返ってみると、ファミリー層が多く、全然違う地域からきたお母さんたちの居場所にもなっていて、来ているファミリー同士が仲良くなっていると感じます。一人で来ている子と別の子のお父さんが腕相撲をしている姿を見かけることもあり、自分の家の子だけでなく、居場所に来ている子どもたちもまるごと、みんなが一つのような形で居場所を使ってくださっていると感じます。私たちは、居場所があって、来ている人同士が自然と心を許せる関係になっていっているのを見守っています。

ほっこり居場所の秘訣は
私たちの人柄かな♡ /

子ども食堂
「にじいろ」(日野町)
奥野 ふじみさん



「福井」～滋賀県からつながる支援の輪～



(株)平和堂
西 政明さん

子ども食堂の支援をする中で本当に県内だけで良いのかという話があがりました。そのようななか、福井県に新しい子ども食堂ネットワークができるという話を聞き、何かできないか、どういったことが求められているのかわかるために、ネットワーク団体のもとに向かいました。設立当初だったこともあり、各食堂の考えも様々で、快く迎えてくれるところもあれば、そうでないところもありました。「必要ないのであればやる必要はない」と社内でも話があがりましたが、必要としていることがあるのではと諦めずに足を運び、3年越しでつながりました。最初に出会った子ども食堂の運営者の方から直接連絡があったことが非常に嬉しかったです。その方と改めて話すなかで、本当に困っている状況があることも知り、一度食堂に来てくださいという話もいただきました。「諦めずに続けてよかった。やるべきことはここにある。」ということを実感しました。

エピソードトークの後は、グループで“未来ワーク”を実施しました。「子ども食堂は今後どうなっていく?」「どんな社会になっていると思う?」など、各グループで思っていることを出し合いました。お話を聞いていると、皆さんが未来に思い描く姿や願いは共通していました。子ども食堂という居場所は、すぐに変化や成果ができるようなものではないけれど、継続して関わり続けるなかで生まれるひとつひとつのエピソードに、これからの可能性や子どもたちの未来があると感じたワークショップでした。



参加者の皆さんの声を一部ご紹介

子ども食堂運営者さん /

人見知りで、多人数の場所へは日頃行かないのですが、来て本当に良かったです。心折れそうにもなりましたが継続する意欲が湧いてきました。

イキイキされている方が多く、元気ができました。先輩食堂さん達に出会えて嬉しかったです。

色々な意見を聴く事が出来て自分達の子ども食堂に活かして行きたいと思いました。まずは、スタッフが楽しく笑顔あふれる子ども食堂でありたい。いつかは学区の垣根をこえて参加してもらえる子ども食堂になる様に働きかけていきたいです。

支援企業さん /

改めて、サポートさせていただく企業としての目的を明確にしたいと考えます。何より継続性、続けることが重要だと思います。CSRに関心がある企業は多いので、更にネットワークを広げていただきたいと思います。

つながることの重要性を再認識しました。スタッフ同士、世代間同士、団体同士がつながることで、より大きな支援につながると良いと思いました。

市町社協さん /

様々な子ども食堂の内容や考え方を聞くことができてよかった。気づきもあり、子ども食堂支援だけでなく、ひきこもり支援等にも活かしていきたい。

活動レポート



衛生管理のPoint!

11/19開催

子ども食堂での衛生管理について学ぼう!

当日は、滋賀県生活衛生課 食の安全推進室及び大津市保健所 衛生課食品指導係より講師をお招きして、子ども食堂での衛生管理に関する基礎知識のほか、子ども食堂での食中毒対応やノロウイルスの対策についてのポイント等をお話いただきました。また、手洗いチェッカーを使用して、どこまで手洗いが出来ているか確認し、手洗いのポイントなどを復習しました。

(参加者：子ども食堂25名(19団体)・行政1名 合計26名)

- ・手洗いによって手の油分が落ち、菌が入りやすくなるため、ハンドケアも大切。
- ・手洗いの際、手で開閉すると蛇口が汚れてしまうので、直接触れず、肘などで開閉すると良い。
- ・調理の際は、除菌シートで手を拭くのではなく、必ず手洗いを行う。
- ・消毒液は必ず乾いた手になじませる。
- ・大量調理の時は温度管理に要注意。
- ・おにぎりは素手で握らない。

12/10開催

子ども食堂での防犯対策について学ぼう!

当日は、滋賀県草津警察署より講師をお招きして、子ども食堂での防犯対策についてを学ぶ研修会を実施。「子ども食堂での防犯対策って?」「いざという時の対処方法は?」等をみんなで学びました。(参加者：子ども食堂9名(6団体)・市社協1名 合計10名)

洗い残しが
ないか
ブラックライトで再確認



参加者の皆さんの声

- ・地域のなかでの開催なので、あまり防犯のことを考えていなかったが、これから意識を高めたい。
- ・まずはメンバーと情報共有して、いざという時のことを話しておこうと思う。
- ・さすまたの置き場所や、正しい使い方を実践で学べてよかった。
- ・防犯についてはボランティアスタッフも含めて全員学ぶ必要があると感じた。

ロールプレイングで
さすまたの使用手順を
みんなで体験



子ども食堂での防災の取り組み

県内の子ども食堂のなかには、コミュニティセンター等の公共施設で実施しているところも多くあります。子ども食堂での定期的な集まりによって、地域の子どもから大人までが顔見知りの関係になることや、災害時に避難所として開設される公共施設等が普段から子どもたちや地域の人たちの身近な場所となることで、災害時の一助となるのではないのでしょうか。現在、子ども食堂でも、防災・減災に関する取り組みが広がっています。今回は、子ども食堂での防災の取り組みと「えにしの日」の取り組みについて一部ご紹介いたします。

＼R5年度 実施内容の一部をご紹介／

YUMEMURAキッチン (大津市)

防災ボトル・防災ネーム作り、赤ちゃんの抱っこ紐としての兵児帯の使い方や目の前にある材料でオムツを作るワークショップを実施しました。



子どもカフェあおぞら (東近江市)

牛乳パックで笛づくりや新聞紙でスリッパづくり。緊急時には、身近なもので工夫できることを皆で楽しく学びました。



おいで子ども食堂 (草津市)

かまどグリルを使った火起こしや湯沸かし、アイラップを使った蒸しパン作り体験を実施。食べる時もラップや袋を活用して皆で美味しく学びました。



「えにしの日」って?

詳しくは、下記2次元コード
＼ をご覧ください。 ＼



滋賀県社会福祉協議会・滋賀県災害時要配慮者支援ネットワーク会議・滋賀県は、災害時に命を守るのは日頃からの地域のつながりであり、支え合えるコミュニティがいかに大切であるかを県下一人ひとりが考え、話し合い、心に刻む日にしたいとの思いから、東日本大震災が発生した3月11日を「えにしの日」と決めました。また、えにしの日をきっかけに、災害時に支援を必要とする人の側に立った訓練や学習会等の取り組みを、県民運動として広げていきたいと考えています。本年も3/1~3/31を「えにし月間」として、実施期間内に実施された重点取り組みにかかる経費について、上限1万円の助成を行っています。

【発行・お問合せ】

滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会

TEL 077-567-3924 FAX 077-567-5160 / E-mail shiga-hug@shigashakyo.jp

※ご意見や感想、取り上げてほしいコンテンツなどございましたらぜひ上記までお問合せください。

＼はくプロHPはこちらから／

